



相談センターだより

この度の東日本大震災で被害を受けられた皆様、および御家族の方々に謹んでお見舞いを申し上げます。

第8号 2011. 5. 発行

誰も悪くない悪循環

ムカデとアリの童話をご存知ですか。

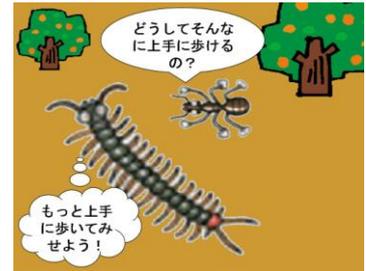
ある日、ムカデが歩いていると、アリがやってきて、感嘆しながら言いました。

「ムカデさん、足がたくさんあって難しいだろうに、どうしてそんなに上手に歩けるの？」

すると、ムカデはうれしく思い、もっと上手に歩いてみせよう！と張りきったのです。

ですがその瞬間・・・

ムカデは足がもつれて歩けなくなってしまいました。



この童話は、人と人とのやりとりによって、悪循環がとても容易に、しかも意図せずしてできあがってしまう様子を、端的に例示しているように思います。ムカデが悪いわけでもアリが悪いわけでもありません。しかし、歩けなくなるという問題が生じてしまったのです。

私たちが悩み苦しむ問題は、こういった悪循環によって維持されていると考えることができるかもしれません。例えば、問題を解決しようとして、むしろこじれてしまう、あるいはかえって続いてしまうということ。解決しようとすることはとても大事なことにもかかわらず、なかなかうまくいかないということ。問題は思いに反して解決が難しい、そんな経験は誰にでもあるのではないのでしょうか。

原因は何か、誰が悪いのかではなく、その解決しようという想いを大切にしながら、悪循環をほどこようなお手伝いができればと考えています。

相談員 石井 宏祐

一口メモ

遊びをせんとや生れけむ 戯れせんとや生れけん
遊ぶこどもの声きけば 我が身さえこそ動がるれ

梁塵秘抄 卷第二 四句神歌 雑

有名な句ですが、こんな時期にこそ、子どもの声に救われるように思われます。こどもの声に耳を傾け、ともに遊び、ともに生きる、ひとりの自分でありたいと模索する日々です。

相談員 吉田 ゆり